

マラッカ海峡に祈りを

まもなくクアラルンプールに到着する旨の機内アナウンスがあった。上空からはマラッカ海峡が見渡せる。さすが年間 9 万隻を超える船が行き交うだけあって多くの舟が確認できる。ここは世界的に見てもスエズ運河、パナマ運河、ホルムズ海峡と並ぶ主要な航路の一つなのである。全長約 900km、幅 65km ないし 70km ほどのこの海峡は、タイ、マレーシア、シンガポールと、インドネシアのスマトラ島の間を北西方面から南東方面へ細長く連なっている。

この海峡には何千もの大小の島が点在している。更には多くの河川が流れ込んでいる。こうした地形は海賊が出没しては隠れやすく逃走しやすい状況にあるようだ。2000 年にはこの海峡で年間 220 軒の海賊行為が発生している。日本も中近東から大量の石油を輸入しているが、必ずこのマラッカ海峡を通過するルートを取っている。注意はするものの 2005（平成 17）年には日本籍のタグボート「韋駄天」が海賊の襲撃を受け、日本人船長と機関長、フィリピン人船員 3 人が拉致される事件が発生（一週間後に解放）した。危険な状況は海賊ばかりでなく、平均水深が 25m と非常に浅く岩礁や浅瀬も多い難所でもある。

マレーシアのリゾート地・ポートディクソンはマラッカ海峡に面していた。美しい海辺に立って静かに私の 20 才代の頃を回想した。外国航路に従事する船員の多くの友人を持っていた。その多くはタンカーはじめ、コンテナ船、大型貨物船などに乗り、日本経済を支える輸送業務に励んでおられた。目の前の海を見つつ彼らの安全な航行は勿論、永遠に世界が平和であることを願わずにはおれなかった。

撮影 2014 年秋

